



陶芸家を呼び込む施策を

村形昌一 議員

陶芸は芸術家と商売とは方向性が違う

町長

大石田を陶芸のまちへ

最近、「日曜美術館」の放映などで町の陶芸が注目されてきているのでは。町長 これまで多くのマスコミや情報誌に取り上げられ、町の観光PRにも大きく貢献していただいている。

どう認識しているか。
町長 陶芸家がそれぞれ個性的な作品を発表し、陶芸教室や個展及び販売を行い、普及活動をしていただいている。

平成26年発行の町政要覧記事中、ブルーノ・ピール氏と高橋廣道氏の対談で、「粘土がこれだけ出ることは、宝の山だ。夢は大石田の陶芸家が500軒とあった。」

町長 町として踏み込んで考えたこともないので、まずは指針を考えてみたい。文化芸術面からは、教育長 現在、小中学生は陶芸をする機会がある。幅広い体験を積ませ芸術の引き出しとなればと考える。

町として「大石田焼」をもっと活用してはどうか。
町長 ガラス工芸家も含め、観光ボランティアやパンフレット、町のホームページなどで情報発信



町の優良企業（東北硅砂株式会社HPより）

していきたい。

支援策や今後の展開は。
町長 ふるさと納税の返礼品や景品等で、陶芸の里として売り出すこともいいと考えている。

粘土の有効活用
東北硅砂株式会社から発生する粘土の状況は。

町長 硅砂を取り出す過程で月に約1200トン発生する。

粘土の処分困っているらしいが、用途は。

町長 以前は外壁メーカーやレンガメーカーと取引していたが、現在は大浦の堆積場への処分と陶芸用に若干提供している。町が利用することで新たな展開が図れないか。

町長 止水目的、例えば堤体工事の材料などに使えないかと考えるが、広くアイデアを求めたい。

3期目のビジョン

町長 現状では、0歳から2歳の子どもの3割しか入所していない。これらを考えると平等ではないという観点から無料化はしない。保育料の負担を要する世帯は、町独自の減額措置で対応し、当面軽減化を図って行く。

すぐにということではなくとも、子育てしやすい町をアピールするために考えていくべきでは。

町長 今後は財政事情も考えながら検討していくべきでは。

雪対策は

最上川からの取水による流雪清整備は、町単独での施設整備になるため諦めたと言うが、今後どうしていくのか。

町長 一昨年度で検討した農業用水、隴気川からの取水について、再度、県と現地調査等行いながら、検討していく。

除排雪に「融雪車」の導入を検討してみても。試算では、今より安く除排雪ができる。

町長 考えてみる余地はあると思う。今後勉強して検討してみたい。



場所をとらず雪を解かず融雪車

給食費無料化

3歳から5歳児までの保育料が10月から無料化になる。3月議会で給食費も無料にとの問いに対し、考えるとしていた。無料にしていくか。

町長 保育所の給食費については、子育て支援の観点から、3歳児から5歳児までは当面徴収しないものとする。

子育てで一番大変なのは0歳から2歳まで、同じように給食費を無料にするべきでは。

町長 現状では、0歳から2歳の子どもの3割しか入所していない。これらを考えると平等ではないという観点から無料化はしない。保育料の負担を要する世帯は、町独自の減額措置で対応し、当面軽減化を図って行く。

すぐにということではなくとも、子育てしやすい町をアピールするために考えていくべきでは。

町長 今後は財政事情も考えながら検討していくべきでは。



給食費(3~5歳児)無料に

大山二郎 議員

3歳から保育料給食費無料にします

町長



おいしい給食ありがとう！（大石田保育園）